

第3回・理事会が開かれる 大会議案の最終討議すすむ！

組織を持った県平和委員会にふさわしい取り組みを！

第3回理事会は、5月28日（土）、午後1時から青少年会館で開催されました。議長は山口常任理事（石岡）、参加者は31名でした。



討議内容は、5月7日（土）の第6回常任理事会を受け、
①「県内の多くの地域に組織を持つ県平和委員会にふさわしい取り組み」と、②「定期大会までの取り組み内容の確認」です。

「2000万署名など、定期大会までに取り組む課題を1つ1つやり切って大会を迎えよう」という水野理事長の挨拶の後、木村事務局長が「①大会議案（経過と取り組み報告・2016年度の方針）」、「②大会までのとりくみ」、伊達代表理事が「③決算報告・予算の素案」を提案しました。

安倍政権は、アメリカのための戦争に日本の若者が血を流す集安安保法制＝戦争法を昨年9月に強行採決しました。一方、立憲主義を破壊する安倍政権の暴走を許さない多くの人たちは、国会の構成を変えるため、「戦争法廃止・2000万署名」にとりくみました。5月21日には、1200万筆超を国会に提出しました。また市民連合を結成して、野党が共闘して自公政権を追い落とす取り組みが大きく進んでいます。

日本平和大会へ参加しよう！

日本平和大会 in 三沢

2016年 10月22日（土）～23日（日）

なくそう！ 日米軍事同盟・米軍基地

三沢基地調査	22日	12:00～
全体集会	22日	15:30～
分科会、シンポジウム、動く分科会	23日	9:00～
閉会集会	23日	13:30～
市内パレード	23日	13:50～



「peace egg in 大阪」

とき 2016年 9月17日（土）～19日（月）
ところ 大阪

若者を中心に実行委員会を結成し、参加します。

今こそ**戦争法廃止**の政府をめざし、年代や職業・立場を超えて「誰も殺すな、殺させない」「野党は共闘」の声を強め、衆参両院の選挙で野党を勝利させましょう！

6 / 18（土）午後3時～
取手駅東口

☆ 戦争法廃止・野党共闘で参院選勝利！
街頭政談演説会

戦争法廃止・立憲主義の回復を求める茨城県市民連合
& 政党などの代表が演説します！

戦争させない・9条壊すな！総がかり取手行動実行委員会
戦争法廃止・立憲主義の回復を求める茨城県市民連合
総がかり取手行動 代表：遠藤俊夫
連絡先：根本和彦（090-6471-7090）

6 / 21（火）午後6時～
水戸駅北口

★ 茨城県民共同アクション！
★ トーク&パレード！

未来を決めるのはわたしたちだ！

18時00分～リレートーク@水戸駅北口
19時00分～パレード⇒宮下銀座入口～南町自由広場

戦争法の廃止を求める茨城県民連絡会
代表：田中重博（茨城大学名誉教授）
事務局：木村泉（茨城県平和委員会）
水戸翔合同法律事務所内（Tel/029-231-4555）

歓迎！新入会員のみなさんです。
よろしくお願ひします。

- ** ** * さん（水戸市）
- ** ** * さん（小美玉市）

*ともに平和の声をおおきく広めていきましょう！

平和新聞

2016年6月5日（日曜日）
2111号（毎月5,15,25日発行）

1950年12月16日第三種郵便物許可 発行 日本平和委員会
1部140円 月額400円 〒105-0014 東京都港区芝1-4-9 平和会館
（郵送料月額120円）電話03(3451)6377 FAX03(3451)6277

平和かわら版 平和新聞茨城版 No. 749
2016/5
発行：茨城県平和委員会 〒310-0912 水戸市見川5-127-281
Tel/Fax 029-251-2806 E-mail ibahei@amber.plala.or.jp

憲法九条は、世界平和の指針

～北茨城・九条の会8周年のつどい～

北茨城平和の会・穂積 健三

4月16日、北茨城・九条の会8周年のつどいを開催しました。100名ちかい参加者で会場はいっぱい、女声コーラスグループ・ハミングバードのさわやかな歌声で始まりました。

「戦争法廃止を求める署名」 2921筆に

つどいの冒頭、藤田稔威雄代表世話人は署名の到達点を報告し、締切りが6月30日になったので、引き続き戦争法廃止の声を広げようと訴えました。署名数は5月11日現在で2921筆となっています。

当日は、憲法違反の安保法制=戦争法に抗して茨城県で結成された市民連合事務局長である、田村武夫茨城大学名誉教授に「憲法を読み解く」と題して講演して頂きました。

講演に共感の声が多数寄せられました

(参加者アンケートから)

参加者からは、田村先生の講演に、分かりやすく力がわいたと共感の声が多数寄せられました。

- 立憲主義成立の歴史的な説明が分かりやすかった。● 訴える力があり、戦争法廃止に向けての力となる話でした。● 今の政治に不安がいっぱい。先生の未来の日本を案じる熱意に感銘を受けた。
- 自衛隊の基本的任務に災害援助が入っていないことは初めて聞いた。災害対策の活動を見て、自分もこう生きたいと思う若者がいるなか、自衛隊離れが起きると徴兵制が心配だ。
- 世界の中での日本国憲法、特に前文と9条の位置づけ、自衛隊の基本的任務の指摘、アメリカを中心とした憲法の生まれた必然性がよく分かった。などなど多数。



(田村さんの講演の要旨)

安保法制は、自衛隊が間違いなく戦争に参加する法律である。自衛隊が、戦闘地域で後方から武器弾薬を供給しているとき、外国軍が攻撃されれば、自衛隊は「駆けつけ警護」し、戦闘に巻き込まれる。これが政府の判断でできるようになった。

しかし、野党の強い抵抗で、国会の承認を必要とする制限的な条文もある。衆議院は自公の過半数で可決できるが、参議院では、今度の選挙結果によって野党が多くなれば、内閣の自衛隊派遣計画を否決できるし、戦争法廃止への有利な条件をつくることができる。

日本は憲法で戦争をしないと決めて、政府や国会が戦争のための法律、予算を作れない仕組みをつくった。これは21世紀の世界平和を創り出す指針として世界の市民から高く評価されている。1999年のハーグ平和アピール世界市民会議で採択された「公正な世界秩序のための基本10原則」の第1に日本国憲法第9条が掲げられている。

小選挙区制のもと、「国権の最高機関」である国会の機能が低下し、安倍内閣の野望が迫っている。これを許せば、憲法「改正」、ヒトラー独裁と同じ強権・恐怖政治を再現する。しかし今、参議院選挙の1人区で野党共闘が広がっている。選挙を通じて安倍内閣の退陣を実現させよう。

茨城市民連合のうごき

衆参同日選挙も取りざたされています。衆参同日選挙狙っている安倍政権を追い落とすため、衆議院選挙を視野にいた参院1人区32の野党の統一候補が選出されました。

その背景に、国民生活破壊とその最悪の形である戦争できる国づくりを許さない立場で最近の選挙で大きく躍進中の共産党が、それまでの選挙方針を替えたことがあります。戦争法廃止の国会ととりくみの中で生まれた「野党は共同」の声と、市民の立場で野党共闘を打ち出した市民の会などの運動を受け止め、戦争できる国づくりを強行する自公政権とその支援勢力を許さないために、野党競技参院一人区の候補者を下してもよいという決断をしました。その結果、統一候補に野党の票が合一されることが京都と、特に北

海道5区の衆議院補選で明らかになりました。2つの選挙では「野党共闘に共産党が参加すると票が逃げるといふ声は事実でないこと」が立証され野党共闘がより強化されることとなりました。

【「茨城県市民連合」の結成】

茨城でも4月13日野党の協同を進める「茨城県市民連合」が、元自治体首長が呼びかけ人となって結成されました。茨城の参議院選挙区は2人区であり、自民党と民進党で1議席ずつ分け合ってきた構図があり、「野党は共闘」の思いが届かない部分があります。しかし立憲主義の土台を掘り崩す自公政権を退陣させるためには、野党が2議席をとるか、自民党の得票を大幅に減らす取り組みが必要です。衆参同日選挙が取りざたされる中、参議院2人区の茨城でも野党の共闘を進める大きな足掛かりになりました。

戦後71年 戦争体験を聞き取って、記録しよう!

*県平和員会では「戦争体験、戦争体験の聞き取り」を募集しています。応募作品は平和かわら版に掲載します。

*以下はひたちなか市の大和田ハツエさんの投稿です。

私は昭和7年生まれです。戦争中の思い出は、筆舌に表現出来ない位の悲しみと苦しみを味わいました。

上の兄の事です。上の兄は入隊の召集令状が来て、近所の人達が旗を持って集まってくれて、兄が挨拶をする少し前に祖父がトイレの前に兄を呼んで、「お前はどんなことがあっても生きて帰ってこい、もしもの事があつたら母親が生きていられないから」と話していたのを今でも、鮮明に思い出されます。兄は目にいっぱい涙をためていました。挨拶の時も泣きながらでした。

それからどの位たったのか、沖縄からの手紙で元気だとの事で、喜んでいました。

それから間もなく「沖縄戦に参加している」と知らされてから、母が朝・昼・晩と毎日写真の前に御飯と茶といろいろお供えをして、陰膳(かげぜん)で話しかけて、「生きて帰ってこい」と何度も繰り返していました。

それからどの位たったのかしら、終戦となって兵隊さん達が帰って来ました。沖縄に行った人は皆、死んだと伝わって来ましたが、母は、あの子は無事に生きていると、また一生懸命、陰膳に向って手を合わせていました。ある日突然「傷痕(しょうい)軍人の人が着ていた白いコートみたいなのを着た人が家の前に立っている」と近所の人が教えてくれて、見に行ったらやせ細った兄の姿でした。歩くのがやっとと云ふ姿でした。「生きて帰ってくれた」と母と二人で大泣きました。

それから2~3日して近所のおじさんが、「何でおめおめと帰って来た。皆、お国の為に死んだのに。アホ」と云われて、その一言が兄の一生をどんなに苦しめたのか、人と話すのがいやになり、そのことを聞いてくれた人がいて、「機関士になれ」といわれて船に乗る事になり、免許を取るのに和歌山に行くといつて・・・。

ある夏の日に私に、ゆかたを買ってくれて、上手に着たので、着物教室に通って、着付けの仕事につく事になり、今では、着付けを教えたり、教えて頂いたり、着物が好きになって、着物を着ると母と兄を思い出します。

大和田ハツエ (ひたちなか市)